



第16回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー

VOD-15 「LGBT から考える SDH～明日の診療から始めるアドボカシー活動～」

【講師】

平山 陽子（鹿浜診療所）

吉田絵理子（川崎協同病院総合診療科）

鈴木 朋絵（鈴木法律事務所（山口県弁護士会））

坂井 雄貴（ほっちのロッヂの診療所）

金久保祐介（亀田ファミリークリニック館山家庭医診療科）

栗原 史帆（亀田ファミリークリニック館山家庭医診療科）

山下 洋充（河北ファミリークリニック南阿佐谷）

久保田 希（にじいろドクターズ）

金 弘子（飯塚病院・穎田病院総合診療科）

杉山由加里（だいどうクリニック 在宅診療部（小児科・緩和ケア内科））

人口の 8%とも報告される LGBT の人たち。日々の診療で気づいていますか？偏見や無理解は彼らを見えにくくさせるだけでなく、医療者の何気ない一言や雰囲気が相談のハードルを上げることもあります。

実際に活動をしている弁護士も講師に迎え、SDH の視点で LGBT の人々のケアを学び、新・家庭医専門医のコンピテンシー、地域志向アプローチに挙げられている、「脆弱な集団のケアやアドヴォケイト」について知識を深めましょう。アドボカシーの第一歩はデモやロビー活動だけでなく、必要な知識を持ち、当たり前の診療や支援をできることだと私たちは考えます。

STEP0：アドボカシーとは？

STEP1：LGBT の人たちがかかりやすい病院/診療所を作ろう

STEP2：診療でジェンダーやセクシュアリティについて話そう、必要なケアを届けよう

STEP3：地域への啓発活動に加わろう、LGBT を意識した性教育をやってみよう

STEP4：ちょっとずつ社会を変えよう。弁護士のアドボカシー活動を参考に